

第三者評価結果

事業所名：うーたん保育園

A-1 保育内容

A-1-(1) 全体的な計画の作成	第三者評価結果
A-1-(1)-① 【A1】 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。	b

<コメント>
 全体的な計画は、理念や方針、目標、保育時間、発達過程、養護・教育、社会的役割、環境衛生、安全事故防止、食育、地域への支援、特色として障害児保育などを網羅して策定している。園長が年度ごとに計画を立案し、年度末には評価して、次年度に向けて方向性を決めている。地域の子どもの一時預かりは低年齢児の利用希望が多く、均等に利用できるよう預かり日を決めている。このような地域の事情を理解し、今後は全スタッフが関わり、意見を出し合いながらの作成を考えている。

A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	第三者評価結果
A-1-(2)-① 【A2】 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a

<コメント>
 子どもたちは、ビーズ遊びやお絵かき、プラレール、プットイン、スイートポテト作りなど、好きな遊びを年齢に関係なく行っている。ただし、水頭症や聴覚障害のため人工内耳を使用している子どもは、マグネットは危険なので、マグネットを使う部屋を決めている。スイートポテト作りなどは、間違っアレルギーの子どもの口に入らないように、部屋のドアを閉めるなど、環境に配慮している。人としての環境の保育士は、指導的に大きな声を出さず、子どもに寄り添いながら会話をしている。子どもに先回りして口を出したり、手を出したりせず、まずは子どもの声を聞いている。子ども同士、また大人との対話を持ち、お互いの思いを伝え合う、知る、認め合うことを大切にしている。園内の清掃は、同法人の活動ホームが行い、清潔を保っている。午睡の時間はあまり暗くせず、子どもの様子が確認できるようにしている。早く目覚めてしまう子どもは、他の子どもの迷惑にならないよう、他の部屋に誘導して遊んでいる。

A-1-(2)-② 【A3】 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a
---	---

<コメント>
 一人ひとりの子どもの状態を全スタッフが把握し、一人ひとりに寄り添った保育を行っている。主体的保育を行っているため、子どもたちがやりたいと考えた状況を作るようにしている。疾病や障害、家庭環境にとらわれず、個々を受容し尊重している。障害ある子どもの保護者には心理士が相談にのり、園での姿を受け入れてもらっている。無地のTシャツに絵を描いた時には、障害のある子どもも絵筆を使い、皆と一緒に楽しく遊んでいる。皆と同じようにやりたい気持ちを汲み取り、楽しさを共有している。0歳児はできるだけ一対一の関係で保育を行い、幼児クラスはミーティングで自分の考えを述べる機会を多くしている。子どもたちの想像力はたくましく、様々な思いが出てくるが、スタッフはできるだけ実現できるよう対応している。

A-1-(2)-③ 【A4】 子どもが基本的な生活習慣を身につけることのできる環境の整備、援助を行っている。	a
---	---

<コメント>
 0、1歳児のクラスは、スタッフと一対一でゆっくりと食事を摂ることから始め、その後は子どもの発達に応じて支援している。幼児はミニバイキング形式をとり、自分の食べたい量を盛るようにしている。登園時間が早く、朝食を摂っていない子どもには、午前におやつを提供したり、早めに昼食を摂るなど、子どもの生活状況に合わせて対応している。低年齢児のオムツは、トイレに行っても濡れていない頃に、布おむつにすることを保護者と相談している。園内では靴下は履かず、はだしの保育を行っている。無理に靴下を脱がせることはせず、活動の中で走り回って危ない時だけ脱ぐこともある。衣類の着脱も、子どもの発達段階に合わせて自分でできるようにしている。

【A5】 A-1-(2)-④
子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。

a

<コメント>

指導計画に沿って保育を行っているが、3歳以上児は朝のミーティングを行い、今日は何をするか、イベントやこれからやりたいことなどを話し合っている。次のクッキングは何をするか、芋掘りのサツマイモはどうするかなどを話し合い、その中で何をやるかを決定している。現在は、法人のイベント「らららライブ」参加の計画を立てている。障害のある子どもが昨年のライブを見て、「次は絶対出る」と自分の衣装を考えている。先日、長年飼育して可愛がっていたインコの「ピーちゃん」が亡くなった。登園時、写真とお骨の前に花を飾り、手を合わせている子どもが多い、卒園した子どもも、学校が終わってから、お参りをしている。インコの死をきっかけに、子どもたちは命の大切さを学んでいる。

【A6】 A-1-(2)-⑤
乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。

a

<コメント>

0歳児は、スタッフと一対一の関係を基本とし、できるだけ家庭と同じように安心して、リラックスして過ごすことができるようにしている。また、食事から寝かしつけまで、できるだけ同じスタッフが関わるようにしている。マッサージをしたり、五感を使った感覚遊びを多く取り入れている。ハーブを入れた足湯を楽しんだり、歩けるようになった子どもは、様々な体験をしながら、スタッフ以外の人も関わっている。毎週金曜日は、玄関前でマルシェ(地域の人が収穫した野菜の販売)があり、焼き芋をもらいに行ったり、2~4階の特別養護老人ホームのお年寄りとの交流を楽しんでいる。天気の良い日は、4人のリバギーで散歩に行き、自然の中で遊んでいる。一人ひとりの子どもの生活リズムに合わせて保育を行っている。

【A7】 A-1-(2)-⑥
3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。

a

<コメント>

クラスの垣根を超え、1、2歳の子どもと一緒に遊んでいる。子どもたちそれぞれが、やりたい遊びのコーナーで、室内ではおままごとや指先あそびなど、好きな遊びを楽しんでいる。天気の良い日は、卒園記念でいただいたみかんの木の実を自由に収穫し、楽しみながら食べたりしている。夏には、自分の好きな野菜の苗を買ってきて育て、収穫して食べている。トマトなどを選ぶ子どもが多い中、ピーマンを選んだ子どももいる。また、子どもたちからピザを作りたいという希望が出て、材料を買物に行き、近くの古民家のピザ釜を使って、ピザを焼いて食べたりしている。

【A8】 A-1-(2)-⑦
3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。

a

<コメント>

3、4、5歳児は基本的に異年齢保育を行っており、皆好きな遊びを年齢に関係なく考えている。虫の好きな子ども20人ほどが集まり、虫部を作っている。虫はやっぱり駄目と1回だけ参加して退部した子どもや、途中から入部した子どもなど様々だが、自分たちが捕まえてきた虫を大事に育て、触っていい時間などルールを決めて、餌や水やりをしている。虫部の子どもたち全員が、自分用の捕虫網を持ち、大切に使っている。アイドル部の女の子たちは、アイドルの衣装をデザインし、カラービニールで衣装を作り、キラキラモールやシールを貼って仕上げていく。コロナ禍でガラス戸越しの交流だったが、特別養護老人ホームのお年寄りにも披露し、喜んでもらっている。男の子たちがアイドル部を応援する部を作っている。

【A9】 A-1-(2)-⑧
障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。

a

<コメント>

肢体不自由やダウン症、聴覚障害などの障害児や、胃ろうや気管切開などで医療的支援の必要な子どもも、皆と一緒に生活をしている。看護師が保育の中に入り、医療的ケアや健康状態の把握などを行っている。同じ建物の隣りに、児童発達支援センターがあり、センターの子どもが遊びにきたり、園の子どもがセンターに行ったりしている。園の基本方針として「インクルーシブな保育」を実践しているため、保護者から障害児養育の相談なども多い。胃ろうや気管切開の子どもも、口からの感触を忘れないために、かき氷などを舐め、感触を楽しんでいる。医療、リハビリ、保育の連携や、保護者との連携を密に取っている。スタッフは、こども医療センターでの研修や近江学園の見学など、専門的な学びの機会を多く持っている。

【A10】 A-1-(2)-⑨ それぞれの子ども在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a
---	---

<コメント>

朝は7:00~8:30、夕方は16:30~19:00に延長保育を行っている。朝は早番勤務のスタッフが、夕方は遅番勤務のスタッフが対応している。子どもの出席簿に状態を記入して、申し送りを行っている。朝早い乳児には、午前のおやつや、早めの昼食を提供している。夕方は補食として、乳児は野菜スープとおかゆ、幼児はおにぎりを提供している。子どもたちは、畳の部屋で、絵本を読んだりして落ち着いて過ごしている。

【A11】 A-1-(2)-⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	b
--	---

<コメント>

ポストを作り、手紙を書く遊びの中で、文字に興味や関心を持ったり、イベントの衣装作りや、マックごっこでの帽子や入れ物作りでハサミを使ったりして、学習につながる遊びを行っている。卒園近くになると学校へ行く週間を設け、近隣の小学校を訪問している。年明けごろから午睡の時間はなくなり、ミーティングをしたり、様々な活動をして小学校に向けての準備をしている。保育所児童保育要録は、複数のスタッフが情報を出し合い、担当スタッフが作成し、主任や園長が確認して提出している。1、2月には卒園予定の保護者懇談会を開催して、小学校生活の案内をしたり、相談を受けたりしている。

A-1-(3) 健康管理	第三者評価結果
【A12】 A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている。	a

<コメント>

健康管理のマニュアルを整備している。毎朝の受け入れ時には、顔色や身体の状態、鼻水、咳、傷などを視診している。0、1歳児は登園してから検温を行い、幼児は登園後、モニターで自分で検温している。日々の健康状態を看護師が確認している。また、すべての子どもの既往歴を把握し、健康面の支援を行っている。感染症の流行時期には、看護師が園内の掲示やお便りで情報を発信し、注意を促している。

【A13】 A-1-(3)-② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	b
--	---

<コメント>

年2回、内科の嘱託医が訪れて、子どもたちの健康診断を行っている。また、年1回、近隣の歯科医が訪れ、子どもたちの口腔内の検査を行っている。内科や歯科の検査結果は保護者に知らせ、虫歯などがあれば治療してもらっている。コロナ禍前は、幼児は昼食の後に歯磨きをしていたが、エナメル質や歯磨きによる飛沫などの関係から、現在、歯磨き指導は行っていない。食後はお茶などをしっかり飲み、口の中をきれいにしよう働きかけている。

【A14】 A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a
---	---

<コメント>

卵アレルギーの子どもがおり、医師からの診断書は1年ごとに更新し、アレルギー反応の確認を行っている。アレルギーのある子どもには除去食を提供し、トレイの色を変え、食事はバイキングではなく、スタッフがトレイに乗せたものを渡して、スタッフの側で食べている。以前は他の子どもと少し離れた壁際で食べていたが、寂しいとのことで今は職員のそばで皆と一緒に食べている。胃ろうや気管切開の子どもは、看護師が対応しているが、口から食べることを忘れないよう、ほんの少しだけ味わえるようにしている。

A-1-(4) 食事	第三者評価結果
【A15】 A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a

<コメント>

栄養士と調理員が、一人ひとりの子どもに合わせた食事を作っている。子どもたちは窓越しに「おはよう、今日はなあに」など、調理員と親しく話している。子どもたちの顔を覚えるため、厨房の窓には一人ひとりの子どもの写真を掲示している。子どもたちから「お弁当で食べたい」との希望が出た時は、家からお弁当箱を持ってきて、給食を詰めてもらい、前の公園でピクニック気分でも食べたりしている。給食当番を決めていたが、早く盛り付けに加わりたい子どももいて、現在は当番をやりたい子どもが行い、皆が満足して楽しく食べることができるようにしている。夏には、自分たちで収穫した野菜を使い、クッキングを楽しんでいる。

【A16】 A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a
<コメント> 食材は冷凍品は使わず、近くの豆腐屋や魚屋、地元の野菜を使って調理し、安全な食べ物を提供している。「食事会議」を開催し、各クラスから、食に関する希望を聞き、献立作成に反映している。また、「厨房会議」では、栄養士と調理員が、子ども一人ひとりの食形態などの確認を行っている。離乳食も、初期、中期、完了期に合わせ、自分で食べられるよう、スティック状の人参の茹で加減などを確認し合っている。	

A-2 子育て支援

A-2-(1) 家庭と緊密な連携	第三者評価結果
【A17】 A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a
<コメント> 子どもの登降園時には、保護者もクラスの中まで入るので、コミュニケーションを大事にして、家庭や園でのエピソードなどを話している。乳児は連絡帳を使い、家庭や園の状況を共有している。幼児クラスは、個人用のノートを持っている子どもはノートでも連携を取り合っている。また、廊下やクラス前にはドキュメンテーションコーナーがあり、園でどのような遊びをしたかなど、多くの写真を展示している。車いす利用の子どもが、絵の具を使って顔まで塗って喜んでいる写真を見て、保護者は「こんなことも体験してるんですね」と感動していることもある。保育参観では保護者は変装して保育室に入り、子どもたちの家では見せない人にやさしい言動、家ではやらない行動を見て感動し、成長を喜んでもらっている。保護者参加のA・UN夏祭りや夕涼み会、すぽフェスなどで、子どもの成長を共有している。	

A-2-(2) 保護者等の支援	第三者評価結果
【A18】 A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a
<コメント> 苦情解決責任者や受付担当を決めているが、保護者は担当や話しやすいスタッフに声をかけ、登降園時に相談している。成長がゆっくりで、心配な子どもの育児相談や医療的ケアが必要な子どもの相談は、相談室でスタッフや時には心理士、看護師を交えて話している。いつでも相談ができ、安心して何でも相談ができる体制を整えている。感情のコントロールが難しい子どもに友だちとトラブルがあり、保護者と話し合い、園での対応を家庭でもやってもらい、子ども同士のトラブルがなくなったなど、保護者との話し合いを大切にしている。	

【A19】 A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	a
<コメント> 着替えやトイレ時には身体の状態を確認し、傷やあざなどを発見した場合は、主任や園長に報告している。児童相談所への報告により、児童養護施設に移行した子どももいる。登園時、母親の様子を見て、心配な子どもには注意して保育に当たり、頭を久しく洗っていない状態であれば、園でシャンプーするなど配慮している。また保護者とコミュニケーションを取りながら、保護者の状態にも注意して慎重に関わるようにしている。	

A-3 保育の質の向上

A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	第三者評価結果
【A20】 A-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	a
<コメント> スタッフは「重点課題シート」を用いて、1年間の自己の目標を立て、半年後には進捗状況を振り返り、1年後にはその年の振り返りを毎年行っている。また、管理職との個人面談を通し、次年度はどうしたいか、希望を聞いている。障害児や医療的ケア児に対し、障害や医療的ケアの外部の専門的研修を受けたい、学びたいと希望するスタッフが多い。研修参加後は、全体会議の中で報告を行っている。子どもたちは自主性を重んじた保育を楽しみ、保育士も自主的に楽しく学んでいる。	